

平日夜間や土日、祝日の1次医療を担う阪神北広域子ども急病センターで働く。県内でも7人しかいない小児救急看護分野の認定看護師。患者治療の優先度を受け付け段階で判断する「トリアージ」を指導する立場だ。

新型インフルエンザの患者が増え、6時間待ちにもなる中、早急の診察を必要としている患者を見極める。「子どもは大人に比べ、言葉による意



小児救急看護認定看護師

川村 桃子さん

恩表示がうまくない。全身から読み取ってあげないといけない」といふ。大阪府貝塚市出身。小児病院長(当時、県立大学)のところに看護士を志し、府立高校で看護士になった。1次小児救急医療士の資格を取った。三重県「たい」と言われ、就職をの看護学校で看護士に決めた。前例が少ない大学病院などを経て、東に不安を感じたが、研究の研修学校で、認定看護師で深めた技術を生かす看護師を目指していた。チャンスだった。

子どもを守る連携訴え

ひと探訪

細心の注意で患者見極め

「自分のところで診られない場合、今は各施設が患者を送ったままになっている。子どもを守るため、開業医や学校、保健所と連携していかねれば」と訴える。「長期的なスパンを考えた対応や受け手が小児全体に必要」と将来を見据える34歳。伊丹市在住。

記事・川口洋光  
写真・田中靖浩

(記者の一言)  
研修学校は病院所属のまま入校する人が多い中、川村さんは退職し、在校中に職探し。「何とかなると思ってた」。あつぱらんと笑う姿に芯の強さ、頼もしさを感じた。不安を抱えて訪れた子どもにとって心強いだろうなと思う。

火災や事故の速報、写真、映像提供、身近な話題、生活情報を下記へご連絡ください。

- 局
- 市和上町6-25  
0798-33-5541  
0798-23-0302  
hin@kobe-np.co.jp
- 局
- 市武庫元町1-11-11  
06-6435-0711
- 局
- 市武庫川町3-8  
0797-84-2211
- 局
- 市桜ヶ丘5-1-9  
072-772-3212
- TEL:078-362-7056

アサヒ  
ホームご用命は  
株式会社  
81)1558

午後 夜 気温

●	●	14	○数字は降水確率
●	●	7	
●	●	14	
●	●	7	

協会関西支社)